

2017 年度春季大会の告示

I. 大会の案内

1. 期 日

2017 年 5 月 25 日（木）～28 日（日）

午後：シンポジウム

第 4 日（5 月 28 日）

午前：口頭，ポスター，ジュニアセッション，
専門分科会

午後：口頭，公開気象講演会，専門分科会

2. 会 場

国立オリンピック記念青少年総合センター
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1
<http://nyc.niye.go.jp/>

3. 研究発表

口頭及びポスター形式で行われます。研究発表の詳細につきましては下記「IV. 研究発表要領」をご参照下さい。

5. シンポジウム

大会第 3 日（5 月 27 日）の午後に開催予定です。テーマは「最新の気象学が描き出す多彩な大気海洋結合現象」です。

6. 懇親会

大会第 2 日（5 月 26 日）の夕刻に、大会会場にて開催予定です。

4. 大会日程

大会は以下の日程で行われる予定です。

第 1 日（5 月 25 日）

午前：口頭，ポスター，専門分科会

午後：口頭，専門分科会

第 2 日（5 月 26 日）

午前：口頭，ポスター

午後：総会，受賞記念講演，懇親会

第 3 日（5 月 27 日）

午前：口頭，ポスター

7. 大会ウェブサイト【2017 年 1 月 10 日（火）開設予定】

本大会では、大会ウェブサイト、2017 年 1 月 10 日（火）より開設する予定です。講演申込み受付や大会プログラムなどの詳細につきましては、こちらをご参照下さい。URL 等につきましては、気象学会ホームページ（<http://www.metsoc.jp/>）をご参照下さい。

II. 大会参加手続き

1. 講演を行う場合の参加申込方法

「天気」本号掲載の「日本気象学会 大会発表規程」に従って講演の申し込みを行って下さい。

原則として大会ウェブサイト上からオンラインで行って下さい。 オンラインで大会予稿原稿を送付できない場合や、クレジットカードによるオンライン決済ができない場合など、止むを得ない事情がある場合は、郵送による申込を受け付けます。

なお、大会参加登録・参加費支払済みであることを講演申込資格とさせていただきますのでご注意ください。

1.1 オンラインによる申込

- ・締切：2017 年 2 月 7 日（火）15 時（日本時間）
- ・大会ウェブサイト参照し、指示に従って申し込みをして下さい。
- ・大会ウェブサイト上で最初に個人情報と ID・パスワードの登録を行います（前回の ID・パスワードはそのまま利用することはできません。お手数ですが、改めて個人情報と ID・パスワードの登録を行って下さい）。この ID とパスワードによって登録システムにログインし、大会参加登録・講演申込・大会予稿送付・参加費決済などを行います。

- ・個人情報とID・パスワードの登録は講演者本人が行ってください。申込締切後、プログラム編成を支障なく進めるために、登録された個人情報は講演者本人のものであることが必要です。また、一つのIDで、講演者の異なる2件の講演申込を行うことは控えてください。ご協力をお願いします。
- ・講演申込の前に、予め大会参加登録と参加費の払込（クレジットカード決済）を行って下さい。大会参加登録と参加費の決済が行われていない場合、講演申込は受け付けられません。
- ・オンライン決済の際には、個人情報登録者本人以外の名義のクレジットカードも使用可能です。
- ・大会予稿原稿もウェブサイトよりご送付下さい。ファイル形式はPDF（容量の上限は1MB）に限ります。
- ・大会予稿原稿を投稿する際には、ウェブサイト上で著作権委譲に同意する必要があります。
- ・講演に関する要望がある場合は所定の欄に記入して下さい。要望事項は、プログラム編成時に可能な限り考慮するように努めますが、諸事情により要望に沿えない場合があるのでご了承下さい。なお、口頭発表の発表日時の希望は原則として受け付けません。また個別の要望についての回答は致しませんので、併せてご承知おき下さい。
- ・講演申込み締め切り（2月7日（火）15時）までは、ウェブサイト上において、一旦申し込んだ講演申込の登録内容の修正や大会予稿原稿の差し替えなどを行うことができます。ただし講演のキャンセルはできません。
- ・締め切り後の講演申込や大会予稿原稿の差し替え等は受け付けません。

1.2 郵送による申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・締切：2017年1月31日（火）（消印有効）
（オンライン申込に比べて締切日が1週間早くなっています。ご注意ください。）
- ・以下の4点を講演企画委員会事務局（下記）まで電子メールまたは郵送にてお送り下さい。
 - ① 大会予稿原稿（電子メールの場合はPDF形式）
 - ② 講演者氏名（漢字とローマ字）、所属、所属略称、会員番号、発表形式、連絡先（住所・

電話番号・E-mailアドレス）、講演題目、主・副キーワード、参加種別（講演者A／講演者B）、懇親会（参加／不参加）、その他必要事項を書いたもの（様式は自由）

- ③ 郵便振替払込受領証またはそのコピー（次項参照）
- ④ 全ての著者のサインを記載した著作権委譲承諾書（フォーマットは以下に掲載）

http://www.metsoc.jp/E/msj_copyright.pdf

送付先（電子メールの場合）：

kouenkikaku2017s@mri-jma.go.jp

（件名に「講演申込 2017s」と明記して下さい。）

送付先（郵送の場合）：

〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1

気象研究所予報研究部内

気象学会講演企画委員会事務局

（封筒の表に「講演申込」と朱書して下さい。）

- ・講演申込の前に、以下の要領に従って郵便振替によって参加費を納入して下さい。
 - －口座番号は「00130-3-5958」、
 - 加入者名は「日本気象学会」です。
 - －「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。
 - ① 「2017年度春季大会参加申込」と明記
 - ② 会員番号（非会員の場合は「非会員」と明記）
 - ③ 大会参加種別（講演者Aまたは講演者B）
 - ④ 参加費金額
 - ⑤ 懇親会費金額
 - ⑥ 合計金額
 - －「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。
 - －払込料金は本人負担でお願いします。

1.3 講演のキャンセルについて

- ・講演申込み後は、講演のキャンセルは原則として受け付けられません。止むを得ず大会参加や発表を取り止める場合でも、すでに支払われた参加費・懇親会費は返却しませんのでご注意ください。
- ・講演者の都合が悪くなった場合の代理発表につきましては、柔軟に対応いたしますので講演企画委員会（kouenkikaku2017s@mri-jma.go.jp）までご相談下さい。

2. 講演をしない（聴講のみ）場合の参加手続き

以下のいずれかの方法で参加費等を納入して下さい。
事務負担軽減のため、なるべくオンライン（大会ウェブサイト）による事前登録をご利用下さい。

2.1 オンラインによる申込

2017年4月4日（火）までに大会ウェブサイトに参加登録し、参加費を払い込んで下さい（クレジットカード決済のみ）。期日までに参加費の払い込みが済まされない場合は、参加登録は無効となります。

2.2 郵送による申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・2017年3月28日（火）までに、郵便振替で参加費を払い込んで下さい。
 - －口座番号は「00130-3-5958」、
 - －加入者名は「日本気象学会」です。
 - －「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。
 - ①「2017年度春季大会参加申込」と明記
 - ②大会参加種別（聴講者Aまたは聴講者B）
 - ③参加費金額
 - ④懇親会費金額
 - ⑤合計金額
 - －「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。
 - －払込料金は本人負担をお願いします。

2.3 大会当日に会場で申込

当日会場で参加登録をして、参加費を現金で支払って下さい（当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意ください）。

3. 参加費、懇親会費

3.1 参加費

- ・参加費（食事代等は含まれません、消費税込）は以下の表の通りです。

参加費		
種別	前納	当日
講演者A	8,000円	－
講演者B	5,000円	－
聴講者A	3,000円	4,000円
聴講者B	5,000円	6,000円

- ・講演者の種別：

講演者A：研究機関・大学に所属する講演者（ただし、学部生・院生は除く）

講演者B：講演者Aに該当しない講演者

- ・聴講者の種別：

聴講者A：気象学会員の聴講者

聴講者B：気象学会員以外の聴講者

- ・講演件数が2件の場合も参加費は変わりません（講演件数による加算はありません）。
- ・気象学会員でない方の講演発表については、「VI. 非会員の大会講演について」を参照して下さい。

3.2 懇親会費

- ・懇親会費（消費税込）は以下の表の通りです。世代を問わず多くの方々に参加していただき交流を深めたいと思います。

懇親会費		
種別	前納	当日
一般	5,000円	6,000円
学生	1,000円	1,000円

- ・懇親会費はオンラインもしくは郵便振替で参加費と同時に前納することが出来ます。期日までに懇親会費の払い込みが済まされない場合は、前納による参加登録は無効となります。当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意ください。

3.3 その他

- ・一旦支払われた参加費・懇親会費は返却いたしません。
- ・参加費・懇親会費の種別は、支払い時点での所属によって判断して下さい。一旦支払われたあとの所属変更などによる種別の変更はいたしません（追加の支払い請求や差額の払い戻しなどは行いません）。
- ・領収書は大会当日に受付で発行させて頂く予定です。
- ・参加当日は、参加登録・決裁完了メールのプリントアウト等を持参いただくと、よりスムーズに受付を行うことが可能です。

Ⅲ. 大会予稿原稿作成要領

1. 原稿サイズ・枚数

1 件あたり A4 判 1 枚とします。

2. 作成方法

大会ウェブサイトから申込みをする場合のファイル形式は PDF (容量の上限は 1 MB) とします。郵送する場合は A4 用紙に直接出力するか、別紙に作成した文書・図表を用紙に糊付けして下さい。

3. 印刷

原稿は B5 サイズに縮小されて白黒でダイレクト製版されます。階調のある写真や図は、明瞭度が落ちる場合がありますので作成時にはご注意ください。特に、カラーの写真や図は明瞭度が極端に落ちる場合がありますので、予めご承知おき下さい。

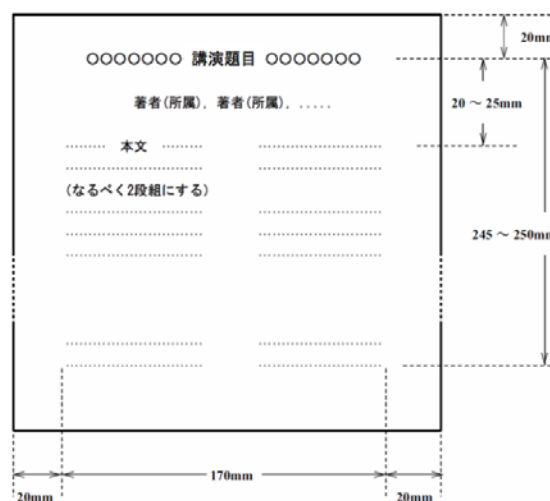
4. 配置 (付図参照)

記載範囲は縦 250mm×横 170mm 以内とし、上部には 20mm の余白をとって下さい。最上段に講演題目、その下に著者と所属を書き、本文をその下につけて下さい。著者が複数の場合には講演者の左肩に

*をつけて下さい。講演題目から本文までの間隔は 20~25mm として下さい。本文は原則として 2 段組 (左半分→右半分) にして下さい。

5. 著作権

予稿集に掲載された文章および図表の著作権は (公社) 日本気象学会に帰属します。



図：A4 判用紙による大会予稿原稿の作成要領

Ⅳ. 研究発表要領

1. 発表の種類

講演方法には、口頭発表 (専門分科会を含む) とポスター発表の 2 種類があります。

2. 発表件数の制限

1 講演者あたりの発表件数は 2 件以内とします。ただし内容がほぼ同一と見なされるテーマでの 2 件の発表は認められません。この制限に抵触する申込があった場合には、講演企画委員会が適切に対応します。

3. 講演方法の選択について

講演方法 (口頭/ポスター) につきましては講演申込時に選択できますが、申込件数や会場の都合等により希望通りにならない場合があることを予めご

了承下さい。なお、講演申込時に講演方法の希望がない場合は、講演企画委員会の裁量で振り分けを行います。

4. 口頭発表の概要

口頭発表の講演時間は全て同一とします。1 件あたりの講演時間は、口頭発表に配分された時間の総計を申込件数で割ったものを目安として講演企画委員会が決定し、大会プログラムに掲載します。

5. 専門分科会の概要

- ・専門分科会は大会第 1 日目 (5 月 25 日 (木)) および 4 日目 (5 月 28 日 (日)) に開催予定です。
- ・専門分科会の各講演の講演時間はコンビーナーが決定し、大会プログラムに掲載します。

- ・専門分科会への講演申込み締切日は一般講演と同じ（オンライン申込は2月7日（火）、郵送申込は1月31日（火））です。
- ・専門分科会に申し込まれた発表については、コンピーナーが大会予稿原稿を審査して、専門分科会での発表を認めるかどうかを判断します。
- ・専門分科会に申し込まれた発表が、コンピーナーによって専門分科会に適さないと判断された場合には、一般発表に振り替えます。
- ・各専門分科会の詳細につきましては、「V. 専門分科会のテーマと趣旨」をご参照下さい。

6. ポスター発表の概要

- ・ポスター発表の時間は1時間程度とします。ポスター発表の時間には他の行事は行われません。
- ・ポスターの掲示・撤去は、講演者の責任で行って頂きます。
- ・掲示スペースは、縦150cm×横180cmとします。なお、ポスターは大きな紙1枚に書く必要はなく、小さい紙に分けて書いたものを当日並べて掲示しても構いません。

7. 講演における機器の使用について

- ・口頭発表（専門分科会を含む）につきましては、PCプロジェクターが使用できます。それ以外の機器は使用できません。
- ・PCプロジェクターを使用する場合は、以下の点に留意して下さい。
 - ーパソコンは各自でご準備下さい。会場にはプロジェクター、VGAケーブル及びHDMI-VGA変

換アダプタを準備します。VGA（ミニ D-sub15ピン）、あるいはHDMI（フルサイズ）コネクタを装備したPCが使用できます。

- ーセッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行って下さい。接続に不安がある場合は、その際に会場係に申し出て下さい。
- ー突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応をすることがあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようお願いいたします。

- ・ポスター会場での機器の使用を希望する場合は、機器の名称およびその使用方法を、講演申込み時に届け出てください。口頭発表への申し込みをする場合も、プログラム編成上の都合によりポスター発表に振替られた時に、機器を使用する可能性があれば同様に届け出てください。ただし会場の都合により、その要望が受け入れられる保証はありません。

8. その他

- ・大会プログラムは「天気」4月号及び大会ウェブサイトに掲載されます。
- ・口頭発表セッションにおける座長は、テーマごとに発表者の中から選ばれることが多くなっています。講演企画委員会が、座長候補者を選び、候補者へはその承諾に関する打診を行いますので、その際にはご協力願います。

V. 専門分科会のテーマと趣旨

2017年度春季大会では下記の通り、7件の専門分科会が開かれます。

1. 「異常気象のメカニズムと要因分析」

趣旨：1週間から1ヶ月程度の時間スケールで出現する顕著な天候変動—いわゆる異常気象—の理解は、気象学の重要テーマというだけでなく、一般社会にも大きな意味をもつ。気象庁では、社会経

済に大きな影響を与える異常気象が発生した際に迅速な要因分析を行い発表することを目的として、2007年6月に異常気象分析検討会が設置された。この検討会は、現在まで官学連携の好例として活動を続けているが、2017年がちょうど10年の節目にあたる。そこで、本分科会では、異常気象分析検討会や現業の気候系監視を気象学会員に紹介するとともに、近年の異常気象に対するメカニズ

ム・予測可能性・要因分析研究はもちろん、ENSO・IOD・温暖化といった長期の気候変動・変化と異常気象のかかわりなど、幅広い講演を募って議論を深めたい。

コンビナー: 木本昌秀(東京大学大気海洋研究所), 中村 尚(東京大学先端科学技術研究センター), 前田修平(気象研究所気候研究部), 高橋清利(気象庁地球環境・海洋部), 渡部雅浩(東京大学大気海洋研究所)

2. 「福島第一原子力発電所からの放射性物質の拡散の実態と影響—事故後6年を経過して—」

趣旨: 福島第一原子力発電所の事故から5年半を経過し、事故以後に開始された環境放射能汚染に関する研究プロジェクトによる成果もいろいろ出てくるようになりました。日本気象学会では事故直後にスペシャルセッション、シンポジウムを開催してきましたが、6年を契機にその後新たにわかった放射性物質の拡散沈着の状況、発生量推定、拡散・沈着・再飛散に係る数値モデルに関する不確実性の削減と活用、今後の政策への提言等の課題に関してこれまでの研究成果を中間的にとりまとめるとともに、今後どのように取り組んでいくかについて議論する分科会を開催したいと思います。

コンビナー: 近藤裕昭(日本気象協会・産業技術総合研究所), 石川裕彦(京都大学), 岩崎俊樹(東北大学), 鶴田治雄(リモート・センシング技術センター), 渡邊 明(福島大学)

3. 「2015年と2016年の台風」

趣旨: 2015年には、台風18号に伴う鬼怒川豪雨により堤防が決壊、流域に大規模な水害が発生したほか、台風15号や21号によって沖縄では記録的な暴風が吹き荒れた。2016年には、台風1号の発生が例年に比べて大幅に遅れたものの、台風7号・9号・10号・11号・12号・16号・18号などが相次いで接近・上陸し、北海道や東北をはじめ各地で大きな被害が発生した。これらの台風の中には、通常とは異なる経路をとったものもあった。このように、過去2年間の台風の挙動には、気象学的にも気候学的にも興味深い現象が多いばかりでなく、社会的にも関心が高く、様々な視点から

議論する場を設ける意義は非常に大きい。そこで、本専門分科会では、手法や時空間スケールを問わず、2015年及び2016年の台風に関する研究を募集し、議論を行う。そして、参加者が多面的に台風の姿を捉え、台風研究についての現状認識と課題を共有することを目的とする。

コンビナー: 伊藤耕介(琉球大学), 佐藤正樹(東京大学), 筆保弘徳(横浜国立大学), 坪木和久(名古屋大学), 別所康太郎(気象庁), 山口宗彦(気象研究所), 中野満寿男(海洋研究開発機構)

4. 「気象庁データを利用した気象研究の現状と展望」

趣旨: 気象庁と気象学会との包括的共同研究契約である「気象研究コンソーシアム」が締結されて9年が経過しました。コンソーシアムでは、数値予報用実況解析、各種数値予報データなどの気象庁モデルの出力データのみならず、海面水温解析値や気象衛星ひまわり8号データなどの最先端の解析・観測データの提供などを通じ、気象研究とその研究成果の社会還元への促進に努めています。

本分科会では、

- (1) 数値予報の出力データを利用した研究
- (2) 気象衛星ひまわり8号データなど新しい観測データを用いた研究
- (3) 数値予報モデル・データ同化手法の開発と精度向上の研究

などに関する講演を募集し、気象庁データが拓く新しい気象研究について展望します。なお、本分科会への講演申込には、コンソーシアムへの参加の如何は問いません。

コンビナー: 坪木和久(名古屋大学宇宙地球環境研究所), 余田成男(京都大学大学院理学研究科), 永戸久喜(気象庁予報部数値予報課)

5. 「偏波レーダーを用いた観測解析技術と利用法の展開」

趣旨: 偏波レーダーは、これまで大学や研究機関で技術開発や利用方法の研究が進められ、2010年から国交省がXRAIN(XバンドMPレーダー雨量情報)に採用、気象庁でも2016年から現業運用が始められました。

精力的に進められている偏波レーダーの観測手

法の開発、精度の高い降水強度の推定、降水種別の判定、データ同化などの偏波データの利用法の開発は、豪雨災害の軽減だけでなく、雲微物理過程や降水現象の機構解明などの研究分野をさらに発展させていくものと期待されています。

このセッションは、偏波レーダーが、どのように利用され活用されているのか、その情報交換の場にしたいと思います。偏波レーダーで観測されている皆さんや、偏波レーダーの観測データを利用している皆さん、興味をお持ちの方々の発表と参加を期待いたします。

コンビナー：瀬古 弘（気象研究所）、上田 博（名古屋大学）、真木雅之（鹿児島大学地域防災教育研究センター）、中北英一（京都大学防災研究所）、佐藤晋介（情報通信機構）、大東忠保（名古屋大学宇宙地球環境研究所）、出世ゆかり（防災科学研究所）、足立アホロ（気象研究所）、川畑拓矢（気象研究所）

6. 「気候変動影響への適応技術とその社会実装」

趣旨：2015年11月に政府の「気候変動の影響への適応計画」が閣議決定された。これまでの温室効果ガスの排出量削減を主とした気候変動への緩和策に加え、気候変動の影響への対策として気候変動への適応策の推進が求められている。これを受け、省庁レベルでの適応プロジェクトが推進され、自治体においても適応基本方針などを策定する都道府県、政令指定都市などが増えてきている。暑熱分野の例では、5m以下の空間解像度のモデル計算に基づく街区スケールでの暑熱環境シミュレーションや、それに基づく暑熱対策の影響評価が実施可能となってきた。自治体施策の実施検討にそれらを利用する試みも進められている。

本専門分科会では、気候変動影響評価と自治体等を対象とした気候変動適応策に関する議論を行う。

コンビナー：日下博幸（筑波大学）、大西 領（海洋研究開発機構）、原 政之（埼玉県環境科学国際センター）、鶴田治雄（リモート・センシング技術センター）、川久保 俊（法政大学）、田中博春（法政大学）

7. 「新世代静止気象衛星ひまわり8号がもたらす新しい気象学」

趣旨：「ひまわり8号」は、前運用衛星の「ひまわり7号」に比べ、水平解像度・バンド数・観測頻度といった観測機能が大幅に強化された。同衛星は、2015年7月7日に運用を開始し、観測データを順調にユーザへ提供し続けている。

同衛星については、2011年及び2015年の春季大会でも専門分科会を実施し、活発な議論が交わされた。その後もデータを利用した研究や技術開発が着実に進展しており、台風や局地的大雨などの顕著現象の実況監視や、データ同化を通じた数値予報モデルの予測精度の向上などの成果が報告されている。

同衛星の運用開始から2年近くが経過する本大会で、これまでの利用成果やプロダクト開発、今後の利用計画、データ提供や校正・運用等について情報を共有し、同衛星がもたらす新しい気象学の知見について幅広く議論したい。

コンビナー：岡本幸三（気象研究所）、岩淵弘信（東北大学大学院理学研究科）、増永浩彦（名古屋宇宙地球環境研究所）、石元裕史（気象研究所）、大野智生（気象庁気象衛星センター）

VI. 非会員の大会講演について

気象学会員でない方は原則として大会講演を行うことは出来ません。しかしながら、短期滞在の外国人や他分野の研究者が気象学会において講演を行う場合を考慮して、講演企画委員会では専門分科会に申し込まれた講演がコンビナーにより採用された

場合に限り、非会員の講演を認めることとします。非会員が専門分科会に申し込んだ講演が採用されなかった場合は、大会予稿は不採択となり、参加費が返却されず（講演者が気象学会員の場合は、専門分科会で不採用になったとき、コンビナーと講演

企画委員会の判断により一般口頭もしくはポスター発表への振替が行われます)。

講演企画委員会としては、大会での講演発表を希

望される方には気象学会員になって頂くよう強く要請します。

VII. 研究会活動への支援について

講演企画委員会では、大会期間中またはその直前・直後に会員が自主的に運営する研究会活動に対し、一般の会員が自由に参加できることを条件として、可能な支援をします。支援を希望する方は、次の事項を明記の上、講演企画委員会（E-mail: kouenkikaku2017s@mri-jma.go.jp）へ申し込んで下さい。なお、会場によっては利用料負担をお願いする

場合があります。

申込期限：2017年2月7日（火）

- 記入事項：1. 会の名称とテーマ
2. 代表者の連絡先
3. 希望日時・開催場所
4. 予想参加人数
5. 希望する支援内容

VIII. 大会期間中の保育支援について

大会実行委員会では、「学会大会時の保育支援にかかるガイドライン」に従い、大会会場内の臨時託児室の設置や大会期間中の保育施設利用料の一部補助などを検討しています（最新の情報は大会ホームページに適宜掲載いたします）。保育支援を希望される方は、2017年4月13日（木）までに下記担当者まで

ご連絡下さい。それ以降の問い合わせにも極力対応させていただきます。

連絡先：猪上 淳（国立極地研究所）

E-mail：inoue.jun@nipr.ac.jp

TEL：042-512-0681

IX. キャリアエクスプローラーロゴについて

1. キャリアエクスプローラーロゴの趣旨

近年、社会問題化している若手・任期付研究者のキャリア形成をサポートするために、日本気象学会では、キャリアエクスプローラーロゴの利用を勧めています。これは、広く学術に貢献する人材の育成および活動支援の一貫として行うもので、会員が望ましいキャリア形成のために求職中の場合に、適職に出会うのをサポートします。

2. キャリアエクスプローラーロゴ

大会予稿や講演資料の中でこれを表示することで自分が求職中であることを表明できます。カラーと白黒のロゴの電子データを学会ホームページから取

得できます。



3. 使用方法

ポスドクを含む任期付研究者や学生で求職中の会員、またはそれに準ずる会員が講演する場合に、大会予稿および講演資料の中で、キャリアエクスプローラーロゴを使用できます。

1. 大会予稿：白黒ロゴを、講演題目の左側に、余白にはみ出さないよう適度な大きさとで挿入してください。
2. 口頭発表：発表資料の任意の場所に分かりやすく表示してください。
3. ポスター発表：講演題目付近の分かりやすい場所に表示してください。

4. 使用に関する注意

1. 日本気象学会およびその会員の主催する講演会においてのみ使用できます。
2. 講演会は学術的な講演・議論を目的に行われず、口頭発表の時間内は、求職・求人に関する議論はご遠慮ください。
3. ロゴは講演者本人の責任の下で使用してください。その使用により生じた如何なる利益・不利益に対しても、日本気象学会は一切責任を負いません。
4. ロゴ導入の趣旨および適切な使用方法を逸脱した使用は一切認められません。

X. リクルートブースの設置について

日本気象学会は、大会会場にてリクルートブースを設置する予定です。これは、適職に出会うための機会を民間企業から広くご提供いただくことにより、気象学会に所属する大学院生や有期雇用の若手研究者のキャリア形成をサポートする試みです。企業の

就職担当者の方々にご来場いただき、就職を希望する参加者と直接情報交換する場を提供します。ブース訪問希望者の参加予約等の手続は不要です。なお、参加企業名は大会プログラムとともに発表の予定です。

XI. 大会期間中の宿泊施設の利用について

大会会場（国立オリンピック記念青少年総合センター）併設の宿泊施設の積極的なご利用をお願いします。1泊あたりA棟は3,200円、D棟は5,100円と割安な価格で利用できます。申し込みは参加者各自

でお願い致します。部屋の情報や申込方法は <http://nyc.niye.go.jp/d1-2-3.html/> をご覧下さい。申込の際には「日本気象学会 2017 年度春季大会参加者」と添えて頂くことをお勧めします。

XII. 電子版予稿集の試行について

講演企画委員会では電子版予稿集の本格運用を目指し、運用形態の検討を行っています。2016 年度秋季大会に引き続き、今大会でも無料試行版という位

置づけで、製本版の予稿集に電子版（CD-ROM）を同梱する形で配布する予定です。

公益社団法人 日本気象学会 大会発表規程

(公社) 日本気象学会 講演企画委員会

1. 大会の趣旨

- 1.1 日本気象学会は、気象学の研究を盛んにし、その進歩をはかり、学術文化の発達に寄与するために、気象学会大会を春季と秋季の年二回開催し、気象に関する研究会および講演会を行う。

2. 大会参加登録

- 2.1 大会において口頭発表またはポスター発表を行う者（招待講演者も含む）は、あらかじめ大会 WEB サイトを通じて個人情報登録ならびに大会参加登録・参加費決済を行うこと。
- 2.2 大会で講演（口頭発表及びポスター発表）を行うためには、招待講演者の場合を除き、大会予稿を投稿し、講演企画委員会（以下、「委員会」という。）により採択される必要がある。
- 2.3 個人情報登録と大会参加登録は本人が行うこと。連絡先は本人に必ず連絡が取れる所とし、代理人の連絡先は認めない。事情に応じて事務局から問い合わせを行うことがある。ただし国外からの参加登録、外来研究者による参加登録、インターネットを利用できないなど、本人による登録がやむを得ず困難な場合には、代理人による登録ができる。

3. 大会予稿の作成

- 3.1 大会予稿の形式等に関しては、大会告示案内（大会 WEB サイトに掲載）に従うこと。

4. 著作権の委譲

- 4.1 本予稿原稿の著作権は、日本気象学会常任理事会決定「気象学会の刊行物の著作権委譲の強化について（2013年1月29日付け）」にもとづき、気象学会に委譲するものとする。

5. 大会予稿の投稿

- 5.1 大会予稿の投稿は、発表者が指定された期日までに行うこと。投稿に際しては、共著者の了承を得るとともに、全ての著者のサインを記載した著作権委譲承諾書を提出すること。国外からの投

稿、外来研究者による投稿など、発表者による投稿がやむを得ず困難な場合には、代理人による投稿ができる。なお、発表者の承諾を得ずに代理投稿された場合には、それを受理しない。

- 5.2 同一発表者による発表可能件数は、最大二件までとする（招待講演もカウントする）。

6. 審査

- 6.1 委員会は、査読審査により、大会予稿の採択または不採択を決定する。大会予稿の採択または不採択は、委員会の裁量に委ねられ、以下に示す例のように、大会予稿の内容が気象学会大会発表として不適切だと委員会が判断した場合には、不採択とすることが出来る。

- (1) 発表内容が他人の研究成果の剽窃と判断される場合、
- (2) 大会予稿が定められた体裁から著しく逸脱すると判断される場合、
- (3) 発表内容が社会倫理上、不適切と判断される場合、
- (4) 発表内容が特定の個人ないし団体を誹謗中傷するものと判断される場合、
- (5) 大会の趣旨を逸脱した目的のために投稿がなされたと判断される場合、
- (6) その他大会の趣旨に鑑み、発表内容が不適切であると判断される場合

- 6.2 発表形態（口頭発表またはポスター発表）は、発表者の希望を考慮し、委員会が決定する。

- 6.3 大会予稿が不採択となった場合には、委員会から投稿者に対して理由を附して通知する。この場合、大会参加料（または参加種別による差額）は返却する。

- 6.4 不採択の理由を不服とする場合には、発表者本人が一回に限り再審査を申し立てることができる。

7. 再審査

- 7.1 再審査の申し立ては、申し立て者の氏名・連絡先、講演題目、著者、および再審査申し立ての

理由を記載した再審査申立書（様式は任意）を、委員会事務局宛に提出すること。

7.2 再審査申立書の提出は郵送で行い、不採択の通知を受けた日を含む七日間のうちに必着のこと。

7.3 再審査申し立てに際して、大会予稿の変更は認められない。再審査は委員会が行い、結果（採択・不採択）を申し立て者に通知する。

8. 採択後の変更・キャンセル

8.1 採択後に講演内容（講演題目、大会予稿）や発表形態を変更することは認めない。

8.2 病気等やむを得ない事情で発表をキャンセルする場合は、速やかに委員会事務局に連絡すること。発表がキャンセルとなった場合には、大会参加料は返却しない。